



Title	Vol.5 No.4
Author(s)	核兵器廃絶研究センター(RECNA)
Citation	RECNAニューズレター, 5(4), pp.1-4; 2017
Issue Date	2017-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10069/37063
Right	© 長崎大学核兵器廃絶研究センター

This document is downloaded at: 2019-02-23T05:12:24Z



「着任にあたって——被爆地の理から考える」

吉田 文彦

このほど、長崎大学核兵器廃絶研究センター教授に着任しました。父親が長崎育ちで、小さい頃から何度も訪ねてきた土地ですが、住まいを構えて仕事をするのは初めてです。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

大学を卒業後、長い間、朝日新聞社につとめておりました。最後の15年間は論説委員として、核兵器の問題も含めた地球規模問題の社説を執筆しておりました。核廃絶を主な取材テーマにしてきた「きっかけは？」とよく尋ねられたので、同社発行のコミュニティー誌に次のように書いたことがあります。

中学校の時、職員室に行くと、社会の先生が新聞を読んでいました。正確に覚えていませんが、見出しに、「核」の文字がありました。聞くと、米国とソ連(当時)が核兵器を減らす話し合いを進めているということでした。ショックを受けたのは、その後の先生の説明でした。

このふたつの国は世界を何回も壊せるほど、大量の核兵器を持っているんだよ。これまで増やすばかりだったけど、やっつのことで、減らす話し合いが動き出したんだ。どうなるか、わからないけど、人間はそんなに馬鹿じゃないと信じたいねえー(引用終了)。

それ以前にも広島、長崎への原爆投下の事実は知っていました。でも、先生の話に耳にしたとき、自分の将来が人類の未来が明日にも消えてなくなるかも知れないほど大量の核兵器がこの瞬間に存在しているんだ——と不安にかられたのを鮮明に覚えています。

大人になってからは、評論家の加藤周一さんの論考にたくさん学ぶことができました。20世紀の締めくりに、こんな省察を記されています。

「原子爆弾の製造は、第二次大戦中にヒトラー征伐を目的として計画された」が、ドイツ降伏後も計画は続けられた。完成すると、広島と長崎に投下された。「その悲惨な結果の詳細が、すべて予想されていたのではなかったろう。いわんや、その後に核兵器競争の恐怖が続くことをだれも考えていなかったに違いない」「科学技術は両刃の剣である。そこからどうい怪物が現れるかを知らずにアラジンのランプをこすってきた。怪物は人類を救うかもしれないし、破滅させてしまうかも知れない。そのことをしだいに強く意識するようになったのも、今世紀のことである」

この重い問いは、今も胸の奥で響いています。人類が馬鹿じゃない種として、いつになれば核兵器という怪物を葬り去ることができるのでしょうか。私たちがどんなアラジンになり、どのようなランプをどのようにこすれば、その目的に近づいていけるのでしょうか。この挑戦は、核兵器が人類を救うと考える人たちに考えを改めてもらう壮大な挑戦です。微力ながら、理は被爆地にありとの確信を抛りどころに、方策を考えていきたいと思っています。お力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

(よしだ ふみひこ、RECNA副センター長)

2017年1月22日(月)、RECNAとしては、初めて「原子力施設」を対象とした核テロリズムに関する公開シンポジウムを実施した。その直前に、米NGOノーチラス研究所主催、RECNA共催の「核テロリズム脅威の削減と東アジアにおける使用済み燃料の脆弱性」と題するワークショップが、長崎市・やすらぎ伊王島で2日間にわたり開催された。その成果を踏まえ、基調講演にマーサ・クレンショー教授(米・スタンフォード大学)、パネリストには、板橋功公共政策調査会研究センター長、ユンスー・ハング韓国原子力研究所首席研究員、フィ・ジャンハーバード大学ケネディスクール上級研究員(中国)、およびノーチラス研究所のピーター・ヘイズ氏の4名が参加し、原子力施設への核テロリズムの脅威について議論を行った。クレンショー教授は、テロにも抑止力が必要であるが、完全に防止することは難しく、特に内部脅威対策が重要である点を強調した。パネルディスカッションでも、各国の核テロリズムへの対策や課題が示された。全体を通じて、核テロリズムの脅威は現実存在しており、可能性は低いものの方が起きた時の被害は甚大であるため、十分な対策が必要であることが強調された。また、北東アジアでの核テロリズム脅威の防止とリスク低減にむけて、国際協力の重要性も強調された。RECNAとして



公開シンポジウムで講演するマーサ・クレンショー博士

2017年1月23日 撮影:RECNA

は、核兵器の脅威のみならず、民生用原子力利用からの核の脅威も重要であり、そのリスクを削減すべく、今後も核テロリズム問題を継続的に取り扱っていく予定である。原子力発電の推進・反対の立場を超えて、客観的立場から、信頼される情報を提供し、その脅威削減にむけて積極的役割を果たすことが、RECNAにとっても重要と考えるからである。

(すずき たつじろう、RECNAセンター長)

2月2日、米プリンストン大学「科学とグローバル安全保障プログラム」の共同ディレクターであるジア・ミアン博士による特別講演会「南アジアの危険な核」が、医学部ポンペ会館にて開催された。ミアン博士はパキスタン出身の物理学者で、英国籍だが、20年以上もプリンストン大学で核問題の研究を続けており、国際核物質専門家パネルの共同議長も務めている。

講演は、インド・パキスタン両国ともが、核兵器プログラムを急速に増強している実態と、両国間の紛争が核戦争につながる可能性が高いことを詳細なデータを用いて解説した。また、1998年の核実験の際に、国連安全保障理事会決議で両国への核開発支援を禁止するよう呼びかけたにもかかわらず、日本を含め、米仏口などが、原子力ビジネスのために原子力分野における協力を進めたため、両国の核開発を止める機会を失った、と説明した。

会場からは、「この問題に出口はないのか」といった質問がでたが、ミアン博士は、唯一の明るい話題として、「核兵器禁止条約の交渉開始」を挙げ、それが成功すれば、出口のきっかけになる



公開シンポジウムで講演するジア・ミアン博士

2017年2月2日 撮影:RECNA

かもしれないと述べた。会場では高校生や学生を含む約50名の市民が熱心に耳を傾けた。ミアン博士は、これ以外にも、RECNA研究会で「トランプ政権下の核政策」と題する講演(非公開)を行い、東京でも、「米国における核軍縮・不拡散教育」「トランプ政権下の核政策」の2つの非公開講演を実施した。

ミアン博士は、RECNAの招待で来日し、東京での2回の会合も含めて、2月4日まで滞在した。

(すずき たつじろう、RECNAセンター長)

ナガサキ・ユース代表団

5期生決まる

核兵器廃絶長崎連絡協議会が主催するナガサキ・ユース代表団は、今年で5回目となり、5期生として、下記の9名が選ばれた。5期生は5月にウィーンで開かれる2020NPT再検討会議第1回準備委員会に派遣される予定で、その前後、長崎から核廃絶へ向けての発信を行うために必要な活動も併せて行うことになっている。

○長崎大学 教育学部2年 片山 桂維(かたやま けい)

被爆72年を迎え若い世代がどんどん動いていくことが重要だと考えています。5期生でもピース・キャラバンは続行させていきたいです。このような貴重な機会を与えてくださったことに感謝しアクティブに活動していきたいと思います。

○長崎大学 多文化社会学部2年 北里 友佳(きたざと ゆうか)

長崎で被爆者の声を聞いてきたものとして被爆者の方々の思いを大切に、核の非人道性に目を向けつつ、世界での核情勢をクリティカルに学んでいく中で、自分がどのようにこの問題にアプローチしていくか考えていこうと思っています。

○長崎純心大学 人文学部比較文化学科1年 酒井 環(さかい たまき)

これまで城山小学校や淵中学校で平和や原爆、核兵器について学んできました。今回これまでの学びや経験を生かし、長崎から後世へ平和や核兵器に対する思いを継承したいと考え、ユース代表団に興味を持ちました。

ユース代表団で得たことを特に私達と同世代のみなさんに広く、深く伝えていきたいです。

○長崎県立大学 国際情報学部3年 立石 丞(たていし すずむ)

私は宮崎県出身で、大学生活に長崎で始めた平和ボランティア活動をきっかけに核問題に関心を持ち始めました。この



ナガサキ・ユース代表団5期生

2017年1月10日 撮影:核兵器廃絶長崎連絡協議会

活動を通して「広島・長崎の被爆の実相」と「現実的なアプローチ」の二つの視点から自分なりの解決法を編み出していきたいです。

○長崎大学 医学部2年 西垣 あすか(にしがき あすか)

様々な中立的視点から第二次世界大戦、原爆、核兵器についてしっかり考え、自分の持つ疑問にある程度の答えを出したいと思い、今回応募しました。この機会を最大限に生かし、多くを学ぼうと思います。よろしくお願いします。

○長崎大学 多文化社会学部1年 野村 梨紗(のむら りさ)

私は沖縄で生まれ育ち幼い頃から平和教育を受け、戦争の残酷さを教えられてきました。ナガサキ・ユース代表団の活動を通してさらに多くの事を学び、次は私が発信する側になりたいと思います。世界から戦争、核兵器をなくすため、「平和な世界」をつくるための手助けをしたいと思います。

○長崎大学 多文化社会学部1年 福井 敦巳(ふくい あつみ)

今回、長崎ユース代表団の一員として平和・軍縮にむけた貢献をできることをうれしく思います。私は今回の活動を通して、核や平和に関する知識や考えを深め、それらの問題に関わる

専門家や政府の方々との出会いを通じて得たことを日本の平和教育の場で伝えていきたいと思ひます。

○長崎大学 教育学部3年 光岡 華子(みつおか はなこ)

核兵器があるのとないのでは絶対にない方がいいと思ひます。まだまだ知識は乏しいですが、長崎と出身である佐賀の平和教育の違いや核兵器のない世界へ向けた取り組みを知ったからには自分も力になりたいと思ひました。教育の視点から可能性を

広げられるよう精いっぱい頑張ります。

○社会人 山田 ゆり(やまだ ゆり)

私は被爆者である祖父から被爆体験を聞き、少しでも世界平和と実現のために何かできないかと思ひ、今回応募しました。私は声楽家になるという夢があるので、被爆者の方々の思いを歌に乗せて、核兵器使用のもたらす悲惨さや平和の大切さについて伝えていきたいと思ひています。

RECNAの活動

2017年1月1日～2017年3月31日

1月8日(水) ～1月13日(月)	■ワシントンDCにて“Global Nexus Initiative”に参加 (鈴木センター長)	2月3日(金)	■RECNAラウンドテーブル 東京・国際文化会館 ジア・ミアン氏を囲んで
1月21日(土) ～1月22日(日)	■「北東アジアにおける核テロリズムの脅威に関するワークショップ」 - 主催: ノーチラス研究所/RECNA - 会場: 伊王島 長崎	2月4日(土)	■公開シンポジウム「これからの核兵器廃絶と市民運動の課題」 - 主催: 核兵器廃絶地球市民集会長崎実行委員会 - コーディネーター: 朝長万左男RECNA客員教授 - パネリスト: 中村准教授 - 場所: 長崎原爆資料館ホール
1月22日(日)	■平成28年度第3回平和案内人全体会 講演「なぜ核はなくなるのか:『核抑止』を問い直す」 (講師: 広瀬副センター長)	2月18日(土)	■平成28年度核兵器廃絶市民講座 第6回「RECNAと平和教育」 - 講師: 全 炳徳(RECNA兼務教員・教授) - 場所: 国立長崎原爆死没者追悼記念館
1月23日(月)	■新軍縮大使・高見澤將林氏訪問	2月20日(月) ～2月21日(火)	■長崎平和学生会議 - 場所: 伊王島
1月23日(月)	■公開シンポジウム「北東アジアにおける核テロリズムの脅威」 基調講演: 「原子力発電施設へのテロ攻撃とその防止について」 - 講師: マーサ・クレンショー氏(スタンフォード大学、フリーマン・スボルギ国際問題研究所、国際安全保障と協力センター、上級フェロー。米国) - 場所: 長崎大学医学部良順ボードインホール	2月22日(水)	■RECNAラウンドテーブル(東京) スティーブ・フェッター氏(メリーランド大学)を囲んで
1月26日(木)	■米国にて「North Korea Nuclear Scenario」に参加 (鈴木センター長)	3月8日(水)	■第7回RECNA運営委員会
1月27日(金)	■高松市にて日本非核宣言自治体協議会講演 (中村准教授)	3月17日(金) ～3月27日(月)	■米国にて「2017 Carnegie International Nuclear Policy Conference」に参加 (吉田副センター長)
1月31日(火)	■軍縮教育研究会開催(国際文化会館、東京)	3月27日(月) ～3月31日(金)	■NY国連にて核兵器禁止条約交渉会議に参加 (中村准教授)
2月1日(水)	■第32回RECNA研究会 - テーマ: 「トランプ新政権下の核軍縮・不拡散政策」 - 講師: ジア・ミアン氏(米国プリンストン大学「科学とグローバル安全保障プログラム」共同ディレクター)		
2月2日(木)	■公開シンポジウム「南アジアの危険な核」 - 基調講演: 「印パで高まる核先制使用のリスク」 - 講師: ジア・ミアン氏(米国プリンストン大学「科学とグローバル安全保障プログラム」共同ディレクター) - 場所: 長崎大学医学部ポンペ会館セミナー室		

※ニュースレターを電子版でお受け取り御希望の方は、
下記メールアドレスへ御一報くださいますようお願いいたします。

RECNA ニュースレター
長崎大学核兵器廃絶研究センター
第5巻4号 2017年3月31日発行

発行 長崎大学核兵器廃絶研究センター
〒852-8521 長崎市文教町1-14
Tel. 095-819-2164 Fax. 095-819-2165
E-mail. recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp
http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/

印刷 株式会社インテックス

©2016長崎大学核兵器廃絶研究センター